

第2回 市民ワークショップ開催結果



お問い合わせは、こちらまで
昭島市 企画部 総合基本計画担当
電話:042-544-5111(内線 2397)



昭島を元気にするには？

まちづくりの指針である「第五次総合基本計画(基本計画)」の策定に向けて市民ワークショップが開催されました！

第五次総合基本計画の策定に向け、広く市民の意見をお聴きするため、2月14日(日)に市役所市民ホールで第2回市民ワークショップを開催しました。

今回も“無作為抽出の市民によるワークショップ”という市民参画の手法を採用し、16歳以上の市民1,000名の方を無作為で選び、第1回の参加者にあわせ参加を呼びかけました。当日は34名の方に参加していただき、活発に討議していただきました。

今回のワークショップでは、総合基本計画審議会で「第五次昭島市基本構想素案」が取りまとめられたことを受け、素案における昭島市の将来都市像「ともにつくる 未来につなぐ 元気都市 あきしま ～人も元気 まちも元気 緑も元気～」の実現に向け、「あきしまを元気にするには」をテーマとしました。ワークショップの結果は裏面に取りまとめています。



当日のプログラム

時間(午前)	内容	時間(午後)	内容
9:30～10:00	受付	13:00～13:30	【講演】 平石 正美氏(国士舘大学政経学部教授)による講演
10:00～10:30	開会 主催者挨拶 講師紹介・挨拶 趣旨説明 討議の進め方説明	13:30～13:35	討議の進め方説明
		13:35～15:00	グループ討議② (午前の討議を参考に「昭島市を元気にするには？」)
10:30～11:50	グループ討議① (「昭島市の元気なところ」 「元気のないところ」)	15:00～15:10	休憩
		15:10～15:34	グループ検討結果発表
		15:34～15:55	講師講評
11:50～12:14	グループ検討結果発表	15:55～16:00	市長挨拶
12:15～13:00	昼食／休憩	16:00	閉会

講演 昭島市を元気にするための視点！！



もし、地域社会に協働がなかったらどうなるのか…

社会関係資本の社会的効果とは…???

午後の話し合いの参考として、国士舘大学政経学部教授 平石 正美氏による講演がありました。

【元気の共通項】

- ① 危機感を共有すること
- ② 自分自身が楽しんでいること
- ③ 自分たちで問題解決しようとする自発性と
その組織力

参加者から寄せられた感想

《市民ワークショップに参加して…》

- ・市民ワークショップは、いろいろなテーマでジャンジャン開催して欲しい。
- ・昭島を大切に、誇りを持って暮らしていきたいと思いました。
- ・先生の講演がとても興味深く聞かせていただきました。
- ・大人だけでなく、中学・高校生も入れた方がよいと思う。 など

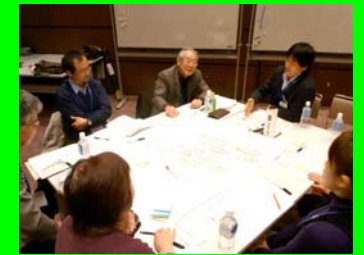
今後の取り組み

市民ワークショップの結果については、市民参画によりまとめられた、まちづくりに関する市民の意見として、総合基本計画の検討を進めている昭島市総合基本計画審議会に報告し、計画審議の参考資料として役立てていきます。



午前のテーマは、「昭島市の元気なところ」と「元気のなところ」

午後のテーマは、午前の話し合いや講演の情報をもとに、「昭島市を元気にするには？」 それぞれのグループが話し合った結果は・・・？



元気なところ

元気のなところ

元気にするには？・・・

Aグループ

- ・人口が増えている
- ・病院（医療）が多い
- ・道路が整備されてきた
- ・高齢者が元気にウォーキング（ゲートボール等）
- ・古さと新しい など

- ・玉川上水や多摩川沿いなどウォーキングに適した環境を、うまく活用していない。
- ・一人暮らしの方へのケア
- ・東中神の個人店舗がなくなってきている

- 1 スポーツで活性化する昭島
- 2 自治会が元気な昭島
- 3 子育てしやすいまち昭島

若者が積極的に参加できるスポーツを活性化すれば、地域のネットワークやコミュニケーションが充実するのでは。そのための人材作りと、活動する人たちを支える仕組みをつくるのが大切。それが地域活動の活性化につながり、ネットワークを活用して子育てのしやすいまちにつながる。

Bグループ

- ・自然環境がよい
- ・水がおいしい
- ・地域活動が活発なところもある（NPO、くじら祭り、産業祭）
- ・交通の便が良い（都心まで近い、駅が多い） など

- ・自己中心的な人が多く、コミュニケーションが不足している
- ・子どもを取り巻く環境が十分とは言えない（児童館が少ない）
- ・昭島の良いところのPRが下手 など

市長さんに提案！（要望ではなく提案です。一方的にお願いするのではなく、私たちががんばります。）

1 子どもたちを元気に！

元気のいい、一生懸命やってくれる先生により、他校のお手本となるようなコミュニティスクールを創り、そこが核になって子どもたちが元気に成長していく。

2 地域を元気に！

- ① 子どもたちを取り囲む地域も元気ではなくは。公共施設などを活用して、このワークショップのような気軽に話せる場を確保して、地域のなかで市民が気軽に意見を言えるような環境を創っていきたい。
- ② 仕事は定年を迎えても、いろいろと技術や経験を持った方が地域にはたくさんいる。その方たちを活用していけるような場が設けられたら良い。

3 商店会を元気に！

- ① 昭島版「道の駅」を創ってはどうか。
- ② 商店会に人を呼ぶため、周辺に無料駐輪場・駐車場を整備

Cグループ

- ・自然がほどよく残っている
- ・ベッドタウンとしてよい
- ・静かなまち 住みやすいまち
- ・水がおいしい
- ・まちの外への交通はいい（JRを核とした、都心へのアクセス性）

- ・まちの整備が進んでいない
- ・まちの中の交通アクセスがダメ
- ・世代間の交流が少ない など

結論としては、「外から人を呼ぶ」これが元気になるポイント。そのためには、まちの魅力づくりが大切～緑の風を感じるまち～を目指す。外から人が来れば、産直などで物が売れる。歩道なども整備されていいまちができる。

1 自転車の活用をはかる

- ① サイクリングロード（玉川上水、多摩川・街を活かした）の整備
- ② エコ・健康に貢献
- ③ 家族で参加できるロードレース大会の開催

2 複合施設（観光、健康、スポーツ施設）の整備

温泉と図書館の複合施設をサイクリングロード沿いに整備して、サイクリングのあと温泉で汗を流し、図書館で頭も鍛えては

3 公園の魅力アップ

- ① 昭和公園の名称を変更しては（昭和記念公園との差別化）
- ② 市民球場も整備されたのでスポンサーを探しては

Dグループ

- ・地域活動（祭り・自治会等）が活発
- ・子ども（幼児・小中学生）を守るボランティア活動が活発
- ・すぐれた住環境下にある
- ・スポーツ活動が活発 など

- ・交流が少ない（先住民と新住民、外国人と日本人）
- ・自治会活動に消極的
- ・子どもが少ない、子育て・生活環境が不十分 など

1 自治会の活性化をはかる。

- ① 自治会でこのようなワークショップ開催しては。
- ② 自治会活動に面白みを増やす

2 若若男女、外国人、企業勤労者など交流の機会を増やす

- ① お年よりは学童保育へ自由に参加できるようにする。
- ② くじら祭りなどに外国の方に店を出店してもらっては

3 各種市民イベントの充実と広報活動の促進

- ① 市民活動の発表の場としてイベントを充実させる
- ② 広報誌及び市HPの活用により、市民の活動をみんなに知らせることが大切

Eグループ

- ・シニアが活発で良い
- ・子どもが元気にのびのび
- ・木とお花がきれい
- ・人が集まる商業施設
- ・まとまっていて、自転車で生活しやすい

- ・図書館、公園の使い勝手が悪い
- ・道路の整備が遅れている
- ・市民同士の交流の場が少ない（NPO）
- ・「昭島の森」と威張って言えるモノがない など

1 昭島を有名にする（これが結論!!）

そのためには、① くじらサミットの実施 ② 水道水日本一コンテストを開く ③ 新しくなった市民球場で少年野球の全国大会を実施 など検討しては。

2 子どもと高齢者が幸せになれるまちを目指す。（そうすれば必ず元気になる。）

- ① みんなのつながりや思いやりが大切。みんなであいさつをしよう
- ② 電柱を地中化してまちを美しく
- ③ 歩道をもっと安全にして、自転車と車が安全に共存できる道を目指す。

3 高齢者の活用をはかる

お年寄りが元気で活動できる場所が必要!! いろいろと技術を持った高齢者の活用をはかるため、地域で人材バンク的な活動があると良い。自治会活動など、地域に密着した活動を充実させることも大切

Fグループ

- ・自然・水・バリアフリー
- ・元気の目が育つ
- ・交流が育てば、元気の目が育つ

- ・行政からのPRがへた
- ・人を育てる元気に欠ける
- ・市民からのアクションがない
- ・教育・教養づくりのための予算確保ができていない など

1 ホームページの充実をはかる。

- ① 市民生活に直結した
- ② 具体的で見て楽しい
- ③ 体系的で探しやすい ホームページの実現 最初は行政で手がけていくが、市民との協働により、市民のグループやボランティアが協力して充実させていく!!

2 予防医学、健康づくりの実現

元気になるためには健康が大切、予防・健康づくりを充実させる。

3 地域サークルづくりとそのネットワーク化

- ① 地震対策のサークルとか環境やエコに関するサークルなど様々なサークルが地域にあって、それが連携していく
- ② 行政の活動ともリンクして、また若者、中学生や高校生も参加して、ともに活動ができる交流の場となる。